

ホテル学校だより

ホテル学校を環境学習の拠点に 豊富小学校「環境教育」の取り組み



豊富小学校（樫山町）では、各学年のテーマに応じて、毎年、ホテル学校での環境教室を実施しています。今年度もすでに 1 年生と 4 年生が訪問し、9 月 27 日に 5 年生が訪問しました。

まだ、小学校に入学したばかりの 1 年生は、ホテルクイズでホテルの生態について学び、ワークシートを持って館内をめぐりました。また、市の天然記念物のトヨトミ梨をめざして歩く道すがら、フィールドビンゴをしながら自然とふれ合いました。

「水や生き物のつながり」をテーマに総合の学習を進めている 4 年生は、水のつながりを考えるアクティビティ「水のことば」に挑戦し、さらに川に入って生き物調べを行いました。学校の近くの寺前川と鳥川では、棲んでいる生き物に明らかな違いがあることを発見できました。



田んぼから川、森にも目を向ける

にとって大きな楽しみの一つとなっています。また、様々な学年がホテル学校での環境学習を実施することで、市内外の学校に対して「どの学年であってもホテル学校に行けば貴重な学びができる」ことを示すきっかけになると考えています。ぜひ、ホテル学校が環境学習の拠点としてますます発展していくことを願っています。（豊富小学校教諭・竹内 謙作）



ホテルの里を散策

ホテル学校歳時記（No. 10）

川岸斜面の管理 きゃくと 客土の実践

川岸斜面はゲンジボタルのサナギの生活場所であり、成虫の休息場所でもある。農業の流れが大きく変化したことで環境が変化し、ホテルをはじめ多くの昆虫類に打撃を与えている。

家畜の飼育をせず、堆肥も作らない。代わりに化学肥料をふんだんに利用するようになった。すると草刈機で川岸の草を刈りとってもそのまま置いてあるので、草が腐敗して細菌の巣となり、ゲンジボタルのサナギをはじめ多くの生き物に寄生して死滅させる。

川岸斜面の健康回復のためには新鮮な土壌を散布する必要がある。土を運んできて入れることを客土（きゃくと）と呼ぶ。赤土 80%と川砂 20%を混合して、春先の新芽が出る前に川の斜面に厚み 3 c m 以上散布する。なかなか大変な作業だから、毎年少しずつ実行するとよい。



川岸斜面へ客土をまく鳥川ホテル保存会

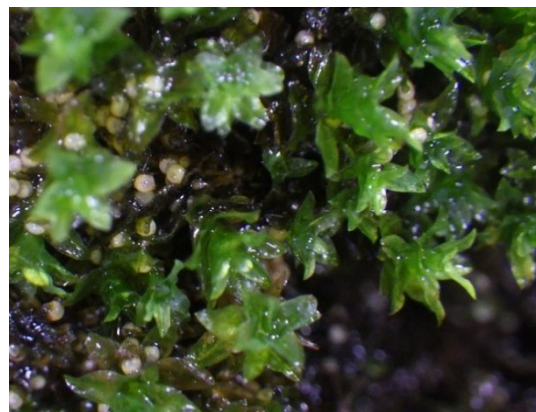
客土用の土は冬季の雨の少ない乾燥した季節に準備する。斜面を常に清潔にして細菌が繁殖するのを防ぐと、2 年目から素晴らしい効果が表れる。前川上流のポイントで毎年実践しているが、素晴らしい飛翔である。

（ホテル学校名誉校長・古田忠久）

鳥川でゲンジボタルの卵を発見

ホタルマスターファミリー講座に参加している杉本翼君（豊橋市立牛川小学校6年生）より、今年、自由研究を進めていく中で、鳥川でゲンジボタルの卵を発見したレポートをいただきました。

昨年9月、台風18号が過ぎた後に川に行くと、川の様子が変わっていたので、「もしかしたら来年、ホタルの発生に影響が出るのでは？」と思い、今年、自由研究の調査を始めました。ホタルの飛ぶシーズンに入り、去年よりホタルの数が増えていることが分かりました。調べてみると冬の気温が高くなっていたので、これがホタルの数の多くなった理由だと思いました。こんなに飛んでいるホタルは、いったいどこに卵を産んでいるのだろう？興味があったので実際に卵を探してみることにしました。地元の川でホタルの卵を探してみても全く見つかりませんでした。あきらめなくなかったので、大原川（鳥川の支流）で探すことに決めました。しかし、川の苔（コケ）を色々を探してみても見つかりませんでした。次の週に再チャレンジすると産卵に最適な場所が見つかり、そこを調べてみると卵がいっぱい産んでありました。さらに調べると、孵る（かえる）ことのできなかった卵も見つかりました。僕は卵が全て孵ると思っていたけれど、実際はそうではなく、ゲンジボタルの生きる環境はとても厳しいものと分りました。



苔に産み付けられたゲンジボタルの卵



孵化（ふか）できなかった卵も多い

金星は未来の地球か



近頃、夕方の西の空に宵（よい）の明星（金星）がきれいに輝いています。地球とほぼ同じ大きさの惑星で「双子惑星」とも言われています。しかし、その環境は雲泥の差です。

太陽に近いとはいえ気温は400度以上…なぜこんなに暑いのでしょうか？実は金星の大気は90気圧の濃いCO₂で、その温室効果により灼熱（しゃくねつ）地獄となっているのです。

まさか、太古の金星人の大気汚染によって引き起こされた訳ではないでしょうが、私達は地球を金星のようにしてしまわぬように考え、行動しないといけませんね。（ホタル学校・神谷）

ホタルを育む森の秘密～間伐はなぜ必要？

ホタル学校イベントとして7月に鳥川の山で「皮むき間伐体験」を行いました。皮むき間伐とは、切り倒さずにスギやヒノキの樹皮をはがすことで木を枯らす間伐の手法です。間伐という言葉はあちこちで耳にするようになりましたが、そもそもどうして間伐が必要



7月に実施した皮むき間伐イベントの様子

なんでしょうか？人が苗を植えた人工林は、野菜を育てるのと同じで、はじめのうちは多めに植えておいて、育っていく過程で曲がったり病気になったりしたものを間引く（間伐する）必要があるのです。良い木を残しながら間伐を繰り返し、何十年もかけて太くてまっすぐな木材を生産していくのが本来の林業の姿ですが、最近は木材の値段が下がり、山林所有者の山への関心が薄れ、間伐をしていない森林が増えてしまっています。こうした間伐が遅れた森が増えてきたことで実はとても大きな問題が起きています。荒れた森林は一体何を引き起こしているのでしょうか？〈次号へ続く〉（ホタル学校・唐澤）

[ホタル学校に関する情報はホームページ・ブログをご覧ください！]

★ホームページ…http://www.morinoeki.jp/hotaru_gakkou/index.html

★水とみどりの森の駅ブログ…<http://sizentaikennomori.booo-log.com>